けやき通信 2018. 11月 No. 305

―錦織 佳代子―

ピー ピョロピョロ
ピー ピョロピョロピョロ〜

広い空に
トビが大きな
輪を描いて
気持ちよさそう
森の向こうは
おだやかな
瀬戸内海
海の青、
空の青に
染まりそう。

11/10 近くの瀬戸内東予休暇村

読書ノート

● ドイツ職人紀行　池内紀著　東京堂出版

手ざわりのいい本を、ゆっくり、たのしみながら読む。しあわせな秋の日。"職人"といえば日本、そして、マイスターという言葉しか私は知らないドイツの職人たち。人々の暮らしを支え、文化を築いてきた長い歴史。著者とともに、理髪師、眼鏡師、靴匠、石工、皮革師など35もの職人たちを訪ねる。たのしい。興味深い。
石を切り出し、サイズを合わせ、設計どおりに積み重ね、"城壁や城や聖堂、天までとどく塔"など、みんな人の手で作られたのだ。
北欧の石畳の道を歩くと、「手仕事」を感じ、何百年もこの上を通った人々や馬車や犬や猫まで浮かんできたことを思い出す。
この通信を書いているテーブル、イスは、松本民芸家具。見えないところに作った職人さんの名が一文字刻まれている。

● 絵のあるまち バルセロナ　森桂 文・写真　なかがわちひろ 絵　福音館書店

尾道美術館の本棚にあった絵本。今治図書館は地下室から出してくれた。去年、フィンランドの孫(6才)に「夏休みはどこへ？」と聞くと「バルセロナ！」。(今年はクレタ島)。私は、サグラダ・ファミリア教会のあるスペインの町ということしかしらない〜、
ああ〜、なんてすてきな町バルセロナ！1カ月位滞在したい。町中が斬新なアートの世界、あっと驚くような彫刻、建物、ミロ、ガウディ、ピカソ、ダリなどの作品が駅に、公園に、アパートに、町の迷画もデザインされて、何度ページを開いても面白いものを発見。
バルセロナ、いいなあ〜、行きたいなあ〜。

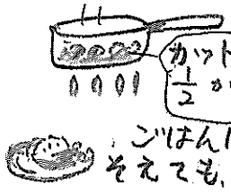
11月7日 皿が山頂、山道にドライフラワーに。

庭のケヤキも黄葉し、毎日たくさんの葉を散らせます。今年は孫を二人授かり、元気に育ってくれてます。人生、何歳になっても思いがけないよろこびや楽しいことがあってくれてる。心からありがたく思います。人生、よい人、よい本、すばらしい景色や絵や彫刻、おいしいものにも出会って、これも年の功？

鯖缶のトマト煮

「かよこさん、5分でできるおかずよ」と千代子さんが缶詰もおみやげに。

倉敷の千代子さん夫婦が新米のお土産もって、「うどん温泉・おしゃべり」に来てくれた。10/31



鍋で少し煮て
私は玉葱スライスも。
少し煮てハイできあがり！
トマトの酸味がおいしい。

ごはんにそえても。

11/6 びっくりするようないい天気　安産祈願のお礼参りに。

市内 鷹取山、天神様、
西条市 子安大師、石鎚神社へ。うちへ帰ると、湯沢さんから信州小布施の銘酒がクール便で届いて、びっくり。お祝いの乾杯！品のいい大人の味にしあわせ〜。

11/14 一生に一度の絶景　加女森は全山まっ白。霧氷。

満開の桜のよう

重い雲、霧の中を走って登り口に着くと、
わあー霧氷!!
足元の枯草も笹原も
大きなシラベの木さえも
まっ白い氷の花におおわれて
幻想的。
不動尊がまつられている
こんな景色にあえるなんて。
冬山ではよく見る風景です。
私 Gのね
よく見る風景です。
あらそう！

→帰りは石鎚スカイラインを走って久万町の古岩屋へ
空も晴れ紅葉が美しい。
垂直に切り立ったがけの岩肌に

11/7 県美術館
石本藤雄展 花から実へ
マリメッコの陶の古茂田守介展
どちらもよかった〜

赤ちゃんに必要なもの、そろえて、国から贈られ、親は何も用意しなくてよい。(お金でもよい)」

大きなダンボール箱は、ベッドにもなる。入院のときもつもり！「まあ！」身一つで。

11/5 フィンランドのカヤがげんきなおんなの子を出産。二週間も遅れて心配してたけど、電話の声を聞いてああよかったー
翌日にはもう退院。
4日目、スカイプで対面。あたたかくして散歩にまるつもり！「まあ！」身一つで。
3日目の写真、しっかりしたお顔。